

第 1 問 答 案 用 紙<1>

(監 査 論)

問題 1

問 1

予想配点(6 点) **易**

当時、我が国において適正意見が表明された直後に企業が破綻する事例が相次いだことで、継続企業の前提について監査人が検討することに対する社会的な期待が高まった。これを受けて、企業の事業継続能力に関わる情報の財務諸表における適切な開示を促すとともに、監査報告書の記載を充実させることで、期待ギャップの解消及び当時の国際監査基準との調和を図ろうとしたことが背景にある。

問 2 ①

予想配点(4 点) **易**

監査人の責任は、企業の事業継続能力を認定して企業の存続を保証することにはない。監査報告書における追記は、あくまで適切な注記に注意を喚起するための情報提供に過ぎないため、財務諸表の信頼性の保証の枠組みである監査意見とは区別することとされた。

問 2 ②

予想配点(4 点) **易**

継続企業の前提に関する注記への注意喚起を際立たせ、継続企業の前提に関する評価と開示に関する経営者及び監査人の対応についてより明確にするために、独立した「継続企業の前提に関する重要な不確実性」区分を設けて記載する。

問題 2

問 1 ①

予想配点(7 点) **難**

識別された継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況は、監査役等とコミュニケーションを行う事項である。そのため、継続企業の前提に関する重要な不確実性がないという結論に至るまでに検討した事項について、監査人が、特に注意を払った事項であり、かつ、当年度の監査において職業的専門家として特に重要であると判断したときに、監査上の主要な検討事項として監査報告書に記載する。

問 1 ②

予想配点(7 点) **難**

「監査上の主要な検討事項」区分を設けて、監査上の主要な検討事項の内容、当該事項を監査上の主要な検討事項として決定した理由、監査における監査人の対応を記載する。具体的には、継続企業の前提に関する重要な不確実性の有無についての経営者の評価の内容や、重要な不確実性の有無が当年度の監査において特に重要であると監査人が判断した理由、重要な不確実性の有無を判断するために監査人が実施した検討の内容などを記載する。

第 1 問 答 案 用 紙<2>

(監 査 論)

問 2 ①

予想配点(7 点)

普

「事業等のリスク」において、継続企業の前提に関する事項が適切に開示されていないため、その他の記載内容に重要な誤りがある。そのため、当該誤りについて経営者及び監査役等への修正要請を行ったにもかかわらず、その他の記載内容が修正されない結果として、監査人がその他の記載内容に未修正の重要な誤りがあると結論付けたときに、監査報告書に記載する。

問 2 ②

予想配点(7 点)

普

「その他の記載内容」又は他の適切な見出しを付した区分を設けて、未修正の重要な誤りの内容を記載する。具体的には、本来、経営者が「事業等のリスク」の中で開示すべきであった、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況がある旨及びその内容や、当該事象又は状況に対して経営者が策定した対応策の内容、当該対応策を踏まえた経営者の評価の内容等を記載する。

問題 3 ①

予想配点(4 点)

普

監査の固有の限界から、監査人は、企業が継続企業として存続できない状態を引き起こす可能性のある将来の事象又は状況を予測できないにもかかわらず、こうした事象又は状況が識別されなかった旨まで監査報告書に記載させるのは、監査人の責任を過重にする。

問題 3 ②

予想配点(4 点)

難

結果的に、全ての監査報告書において継続企業の前提に関する事項が記載されることとなるため、継続企業の前提に関する重要な不確実性がある場合にのみ記載が行われている現行の監査報告書と比較すると、継続企業の前提の問題に対する注意喚起の効果が弱まる。

第 2 問 答 案 用 紙<1>

(監 査 論)

問題 1

予想配点(記述：7 点，指標：各 1 点)

普

連結税引前利益は，連結売上高に大幅な変化がない中で，原材料価格の高騰により過去数年の水準から大幅に落ち込む見込みであり，指標としての相対的安定性を欠く。X 社における重要性の基準値は，利用者が株価を決定付ける利益に特に注目するという共通のニーズに加えて，X 社が属する産業や経済環境，指標の相対的安定性等を考慮して決定する。

指標	連結売上高	連結総資産額
----	-------	--------

問題 2

問 1

予想配点(5 点)

普

特定個人が事業経営に直接関与することで，企業の成長や目標の達成を可能とし，内部統制の有効性に大きく貢献する肯定的な側面がある。一方，特定個人に情報や権限が集中することで，内部統制が無効化され，虚偽表示が生じやすくなる否定的な側面がある。

問 2

予想配点(9 点)

普

利益に対して強気の計画を好む社長には不正を正当化する姿勢があり，自身に異を唱える取締役がいらないため不正を実行する機会も有する。加えて，こうした社長による経理部へのプレッシャーを踏まえると，固有リスクは高くなる。また，会計に疎い社長に対するガバナンス機能が十分でないことや，経理部が保守的な見積りを行いにくいことを踏まえると，関連する内部統制が無視・無効化される可能性は高いため，統制リスクも高くなる。

第2問 答案用紙<2> (監査論)

問題3

問1

予想配点(5点) 普

I T全般統制の不備から在庫管理システムの信頼性は低いため、企業が作成した情報である明細表について、在庫記録及び入出庫証憑と照合して滞留期間の再計算等を行うことにより、監査人の目的に照らして十分に信頼性を有しているかどうかを評価すべきである。

問2

予想配点(10点) 普

本問の不動産鑑定士は経営者が利用する専門家であるため、その適性、能力及び客観性を考慮すべきである。この点、社長の先輩であり顧問税理士の紹介で選任された当該鑑定士は、客観性に懸念がある。また、帳簿価額を僅かに上回る正味売却価額が算定されている点から、当該鑑定士が用いた重要な仮定及び基礎データにも懸念がある。経営者及び当該鑑定士と客観性の阻害要因及びセーフガードについて協議等を行うとともに、当該鑑定士が用いた仮定及びデータについて、外部の市場情報との照合等により検討すべきである。

問題4

予想配点(12点) 易

政情不安により実地棚卸の立会が実務的に不可能であるため、B社棚卸資産の実在性と状態について十分かつ適切な監査証拠を入手するための代替手続の実施を検討する。代替手続を実施できない場合、X社の管理の及ばない状況により十分かつ適切な監査証拠を入手できないため、未発見の虚偽表示がもしあるとすれば、それが財務諸表に及ぼす可能性のある影響を評価する。この点、連結総資産の約12.5%、連結税引前利益の約1,000%に相当するB社棚卸資産残高に係る未発見の虚偽表示は、財務諸表全体としての虚偽表示に当たるとの可能性があるため、当該影響が重要かつ広範であるとの判断の下で、意見不表明とする。